

不登校対策支援プラン

更新日 4 月 3 日

プランの策定にあたって

県内において不登校児童生徒数は増加傾向にある中、不登校対策では、対象や課題性に基づいた取組が求められています。全ての児童生徒を対象とした取組や不登校の予兆が見られる児童生徒への支援、欠席が継続している児童生徒への支援を組織的かつ計画的に行うことが必要です。

本校では、実態を把握し、以下の目標や取組を設定し、教職員が一丸となり対策を進めることで、誰一人取り残すことのない、持続可能な不登校対策や支援を行います。

不登校対策の目標

- 1 不登校傾向を示す生徒を早期発見し、不登校を未然に防ぐ。
- 2 発達特性に応じた対応を行い、別室登校等の多様な対策を実施する。
- 3 個性や多様性を認め合い、関係機関と連携しながら、安心・安全な学校生活を送らせる。

不登校対策における重層的支援構造

(参考：生徒指導提要R4.12)

困難課題対応
不登校児童生徒対象

- ・不登校児童生徒へのカウンセリングや別室登校
- ・保護者や関係機関と連携した支援
(拡大ケース会議の実施)

早期発見対応
予兆のある生徒対象

- ・休み始めの段階でのアセスメント
(校内ケース会議)
- ・組織的対応、保護者と連携した支援

未然防止教育
全ての児童生徒対象
不登校対策を意識する

- ・生徒がSOSを出す力を獲得
- ・教職員が生徒の変化に気づき
SOSを受けとめる力の向上

発達支持
全ての児童生徒対象
不登校を意識しない

- ・安心・安全な居場所となるための
「心通い合う学校づくり」と「授業のUD化」の工夫
- ・教育相談体制の充実

不登校対策チーム構成

管理職、生徒指導担当、学年代表、学年生徒指導担当、養護教諭、スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)、不登校支援員、該当担任等

不登校児童生徒支援関係機関等

市こども学び課、市子育て応援課、市教育支援センター、豊岡こども家庭センター、民生・児童委員、学校問題サポートチーム、但馬やまびこの郷、警察、医療機関等

4つの層での取組等

発達支持

- ・日々の対話を大切にし、励ましや賞賛を継続的に行う。
- ・授業の中で安心して発言でき、学習に取り組める集団をつくる。

未然防止教育

- ・情報モラル教育、人権教育に注力する。
- ・SC、SSW、不登校支援員と連携し、生徒にSOSを出せる力を身につけさせる。

早期発見対応

- ・生活記録、教育相談を常態的に実施し、生徒の変化にいち早く気付く。
- ・いじめアンケート、生活アンケートから早期発見する。

困難課題対応

- ・校内サポートルームと教育支援センターとの連携等、安心・安全な場所を確保する。
- ・学校問題サポートチームと定期的にケース会議等を設け、個別の対策を講じる。